

株式会社偕成社

しらべよう！47 都道府県

「郷土の発展につくした先人」⑤産業「土倉庄三郎」

令和3年(2021)2月発行

ID111352598

郷土出身や郷土にゆかりのある先人の業績や郷土との関わりについて調べる。第5巻「産業」で奈良県の先人として「土倉庄三郎氏」を紹介。

土倉庄三郎（1840～1917） 吉野郡川上村生まれ
木材は育つまで80年かかる。

土倉式造林法で吉野の林業をさかんにした。
筏を流しやすくするため川底を掘り川幅をひろげた。又、教育にも力を入れ地元に小学校をつくり、同志社大学、日本女子大学など創立の援助をした。



（竹園電生吉野川運木船大）

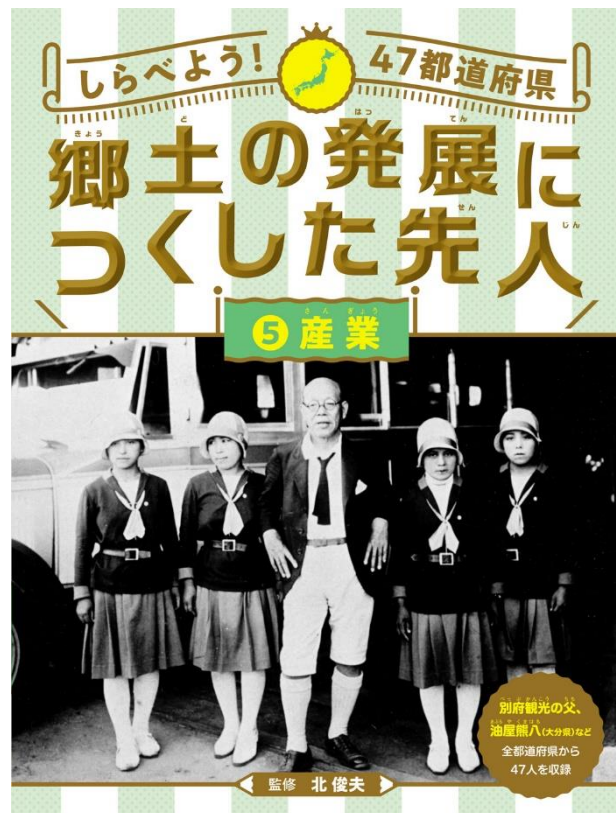
（目人二りよ右）翁郷三主倉土と杉年千

吉野の山の中で千年杉にもたれて座る土倉（右から2人目）。吉野の木は寒い冬を何度も超すため、硬くて腐りにくい木になる。酒を運ぶ樽の素材（樽丸）にして伏見（京都）、灘（兵庫）へ出荷。



最の流成川野吉和太

吉野川を、木材を筏に組み、急な流れを下り運ぶ。



土倉式造林法

苗木を密集させて植え、枝を伸ばす隙間がないため幹は太らず高さが伸びる。下の方の枝は切り落とし数年ごとに適度に木を切りだす「間伐」を繰り返す。木と木の間隔を少しずつ広げていく。このように育った木は節がなく末から先まで同じ太さの真直ぐの木となる。



（1）徳和丸（多利通人部大）

（マンギ）最光の出産村木野吉

山の奥から川まで木材を運ぶ。丸太が敷かれた山道を、そこに木材を乗せ人が引いている。